

令和4年度第4回安塚区地域協議会次第

日時：令和4年6月21日（火）午後7時から

場所：安塚コミュニティプラザ 3階 大会議室

1 開 会

2 会長挨拶

3 報告事項

- (1) 中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの開催状況と今後の展開について

4 自主的審議事項

- (1) 住みやすい安塚の在り方について

5 その他

- (1) 次回開催 令和 年 月 日（ ）午後 時 開会

6 閉 会

中山間地域農業の維持・振興に向けた
地域自治区別ワークショップ(みらい農業づくり会議)
開催状況及び今後の展開

令和4年6月21日(火)

上越市中山間地域元気な農業づくり推進協議会
浦川原区推進チーム

令和3年度における開催状況及び今後の展開について

中山間地域農業の維持・振興 「ありたい姿」(将来の方向性)

地域農業者が
主体的に議論し、
共有する

課題解決に向けたテーマ別方策

担い手・後継者の確保



農業生産維持に向けた
作物選定・所得確保



農業機械・スマート農機の
共有化・共同利用



土地利用の明確化・
農地条件の改善



活動のエンジンとなる組織

市の役割

推進チーム(市・県・JA・農業委員会)として

「ありたい姿」の実現に向けて定められた方策に対する各種支援

令和3年度

幅広い参加者が率直な意見・考えを出し合い、
中山間地域農業のあるべき姿、理想的な姿を共有し、
4つのテーマごとに、実現に必要な取組を見出す

令和4年度

- 見出された必要な取組の具体化を検討・共有
「いつ」 「誰が」 「どうやって」
- 取組を下支えする「活動のエンジンとなる組織」の検討

令和5年度以降

共有された取組の実践

中山間地域等直接支払交付金 集落戦略の作成などの各種施策へも反映

- ・ 中山間地域等直接支払制度に取り組む地区がある

7の地域自治区で各2回開催

～理想的な中山間地域農業のあるべき姿を広域的観点で探る

- ・ 直接支払集落協定や集落の役員だけでなく、

若手や女性など幅広い世代の農業者が参加

～発言しやすい環境づくりのため、性別・年代を偏らせたグループ編成

- ・ 話し合いを促すファシリテーターとして

市、県、農業委員会、農協で構成する「推進チーム」を編成

～各々が担当する立場で、地域の意見を吸い上げる心構えで臨む

延べ14回・444名が議論に参加

谷浜・桑取区
12月14日(火)・3月29日(火)
延べ60名参加

吉川区
11月19日(金)・3月23日(水)
延べ63名参加

大島区
11月30日(火)・3月24日(木)
延べ69名参加

名立区
8月20日(金)・12月21日(火)
延べ69名参加

安塚区
11月25日(木)・3月25日(金)
延べ65名参加

板倉区
11月26日(金)・3月22日(火)
延べ56名参加

牧区
11月29日(月)・3月23日(水)
延べ62名参加

※浦川原区:明治大学主導のフューチャーデザイン・ワークショップ
※中郷区・清里区:新潟県主導のビレッジプラン
※柿崎区:第5期対策開始時に協定広域化議論実施済

第1回開催(令和3年12月まで)

第2回開催(令和4年3月まで)

人・農地・地域の
「強み」「弱み」
の洗い出し

「強み」を伸ばし、
「弱み」を克服する
“方策”の検討

第1回で出た意見を踏まえて
取組方向性や
キャッチフレーズ(CP)
の決定

取組方向性やCPを踏まえて
今取り組めるもの、
将来取り組むべきもの
の検討

ワークショップ参加者の約束ごと

気軽に、楽しく、中身濃く

- ・自分ばかり話しません
- ・相手の意見を否定しません
- ・楽しい雰囲気を大切にします
- ・参加者は対等です
- ・皆が気持ちよく話せるようにします

第1回 地域の「強み」「弱み」と「方策」の洗い出し

第2回 方向性の決定と必要な取組の検討



参加者の率直な考えを付箋に書き出し、

関連するカテゴリーに分類するとともに、さらにグルーピング

安塚区では、

付箋枚数384枚

に及ぶ強み・弱み・方策を洗い出し

意見の数から
優先順位付け

集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

安塚区の農業・暮らしを守るために、

- A 「人口減・少子高齢」を受入れつつ、「人間性・地域性」「特徴・自慢・素材」を活かし、「人・担い手」の確保につなげていく
- B 「特徴・自慢・素材」を活かして、「活力・付加価値」を生み出していく
- C 「フィールド」は、強みと弱みを再認識した上で、打開策を見出していく

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

将来に向けた方向性	
担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも!)や移住者の受入れ体制を整えます。 ・ 将来に向けて、農地の管理、栽培、米の販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 ・ 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組めます。
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキー場と温泉の交流人口を活かした情報発信を行い、豊かな環境のもとで作られた農産物売り込みます。 ・ 雪室を活用した農産物の高付加価値化を図るとともに、様々な販売ルートを通じて、安塚区の農産物(米、山菜等)の販売し、地域全体の増収を目指します。 ・ 雪室を利用した特産品を開発します。
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存制度を有効活用した先進機器の導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 ・ 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 ・ その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
活動のエンジンとなる組織の育成強化(上記を下支え)	

第2回 方向性の決定と必要な取組の検討

集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

- 安塚区の農業・くらしを守るために、
- A 「人口減・少子高齢」を受入れつつ、「人間性・地域性」「特徴・自慢・素材」を活かし、「人・担い手」の確保につなげていく
 - B 「特徴・自慢・素材」を活かして、「活力・付加価値」を生み出していく
 - C 「フィールド」は、強みと弱みを再認識した上で、打開策を見出していく

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

将来に向けた方向性	
担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも!)や移住者の受入れ体制を整えます。 ・ 将来に向けて、農地の管理、栽培、米の販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 ・ 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIターン)に取り組めます。
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> ・ スキー場と温泉の交流人口を活かした情報発信を行い、豊かな環境のもとで作られた農産物売り込みます。 ・ 雪室を活用した農産物の高付加価値化を図るとともに、様々な販売ルートを通じて、安塚区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 ・ 雪室を利用した特産品を開発します。
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存制度を有効活用した先進機器の導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 ・ 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせた一体的な対策を講じます。
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 ・ その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
活動のエンジンとなる組織の育成強化(上記を下支え)	

①キャッチフレーズの決定

安塚区らしさである

豊かな自然と雪を活かし、
ひと手間とブランド化により、
持続可能な農業をめざします

②将来に向けた方向性と

キャッチフレーズを踏まえた
必要な取組の検討

「今取り組めるもの」

「将来取り組むべきもの」の検討

令和3年度における地域自治区別ワークショップの開催状況 ～キャッチフレーズ・将来の方向性～

地域自治区	キャッチフレーズ	将来の方向性			
		担い手・後継者の確保	作物選定・所得確保	機械共同化・スマート農機導入	土地利用・農地条件
谷浜・桑取区	谷浜・桑取区らしさである海から山までの地域資源を活かし、地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします	<ul style="list-style-type: none"> 谷浜・桑取区の「らしさ」「ならでは」であるNPOや生産組合等の既存組織の活力、歴史や伝統の継承、人と人とのつながりなどを活かし、「見る」から「体験」までのきっかけづくりを大切に農業と地域の担い手確保、コロナ禍における第2のふるさとづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な山・海のめぐみや貴重な地域資源を活かした食のブランド化に向けた取組を推進します。 谷浜・桑取区の今(ひと・食・伝統・暮らし など)を発信し、さらなるファンづくりに努めます。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な水資源や水源涵養活動を活かし、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。
安塚区	安塚区らしさである豊かな自然と雪を活かし、ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> スキー場と温泉の交流人口を活かした情報発信を行い、豊かな環境のもとで作られた農産物売り込みます。 雪室を活用した農産物の高付加価値化を図るとともに、様々な販売ルートを通じて、安塚区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 雪室を利用した特産品を開発します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
大島区	大島区らしさである人や物・自然の豊かさを活かし、楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします	<ul style="list-style-type: none"> 担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。 将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。 豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> SNS等を活用して、豊かな自然環境やホテルなどの地域の宝をPRし、農業体験イベントを通じた交流を促進します。(結果として、農産物の販売促進や担い手・後継者の確保にもつながる) 棚田米等の高付加価値化を図り、様々な販売ルートにより大島区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。
牧区	牧区らしさである自然・棚田・人情を活かし、SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします	<ul style="list-style-type: none"> 空き家を活用した移住の手法を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には農業で集落内外の人材を雇用します。 	<ul style="list-style-type: none"> 牧区の自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。 様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。 	<ul style="list-style-type: none"> 各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に、基盤整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。
吉川区	吉川区らしさである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、移住の促進と交流人口の拡大することにより、担い手農家の確保・育成を図ります	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、広域的な集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 吉川区「らしさ」「ならでは」を活かし、「山・水・農」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「吉川ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて吉川ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に行った「集落戦略」を見直し、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
板倉区	板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます	<ul style="list-style-type: none"> 移住者の受け入れを促進します。 将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します。 ボランティアの募集・受入体制を整備します。 将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ソバの生産・販売を強化します。 板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します。 雪や観光地を活用した販売方法を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> 平場の農業者と連携し、スマート農業の導入や中山間地域・平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地・活用可能な農地を線引きします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。
名立区	名立区らしさである豊富な資源を活かし、地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます	<ul style="list-style-type: none"> 「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。 将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。 将来的には、移住・定住者を増やします。 	<ul style="list-style-type: none"> 名立区「らしさ」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。 SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。 「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体的な対策を講じます。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。 その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。

谷浜・桑取区

谷浜・桑取区らしさである海から山までの地域資源を活かし、
地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします

安塚区

安塚区らしさである豊かな自然と雪を活かし、
ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします

大島区

大島区らしさである人や物・自然の豊かさを活かし、
楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします

牧区

牧区らしさである自然・棚田・人情を活かし、
SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします

吉川区

吉川区らしさである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、
移住の促進と交流人口の拡大することにより、
担い手農家の確保・育成を図ります

板倉区

板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、
インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます

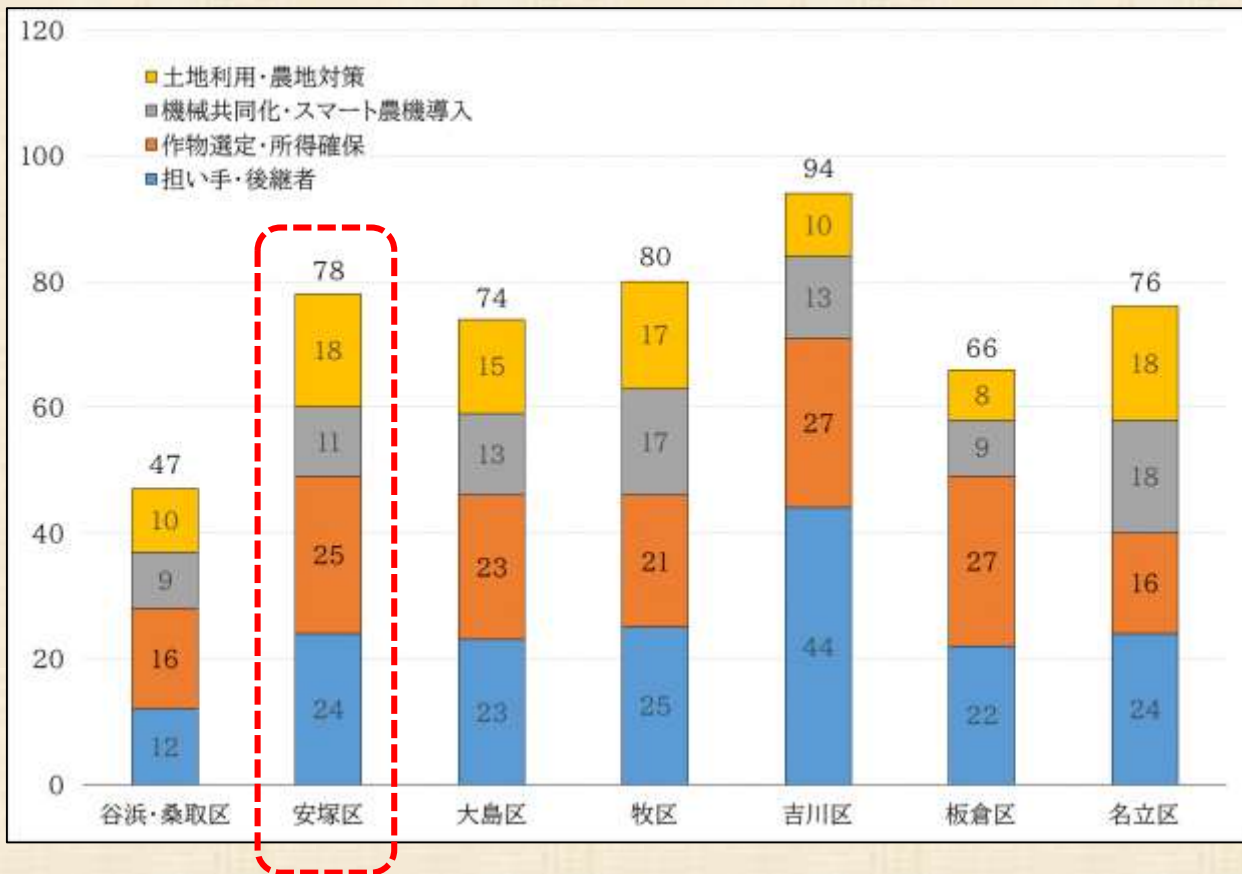
名立区

名立区らしさである豊富な資源を活かし、
地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます

令和3年度における地域自治区別ワークショップの開催状況 ～見出された取組の例～

課題解決に向けたテーマ	見出された取組の例	
	今取り組めるもの	将来取り組むべきもの
担い手・後継者の確保	<ul style="list-style-type: none"> 移住者、定年帰農者の受入れ。住宅、農地を無料で提供(10年間定住) 空き家を利用した宿泊体験。農業体験ツアー 農業女子との交流を増やす。女子力が必要 SNS、ツイッターを利用して安塚区の農業の実態を知らせ、新規就農者を募集する 集落営農法人の設立 学校と連携した農業のPR 牛1頭を購入して、ふるまうイベント 	<ul style="list-style-type: none"> 他産業並みの収入の確保。高い米価 地域間格差の解消 空き家を利用したIターンの誘致 移住者による農業を受入れる 集落営農法人を集約し、農業公社等による集中化 メタバース(仮想空間)で安塚区を体感 PRする組織を作って、売り込む <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">所得と移住はセット</div>
作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> 米のブランド化 山菜と米の詰め合わせ商品 イチジク農園でイチジク狩り 稲作+畑作の複合経営 インターネット販売の共同化 特産物の開発とPR 耕作放棄地でサツマイモの生産 コロッケを売る 安定した販売ルートの確立 地域をPRするCM、動画作成 雪中貯蔵。雪下ニンジンなど春に掘り出し、販売できる物の検討 SNSや動画サイトによる情報発信 スキー場のコテージを貸別荘にする 	<ul style="list-style-type: none"> 自然のメリットを生かしたブランド化 山菜をいかした料理作り 外国へ販路を広げる 民泊で地元ブランド和牛「くびき牛」の提供 ジビエ加工所の検討と販売(食堂を含む) 小さい雪室を多くつくり、利用促進を図る 廃校を活用したイチゴ栽培 冬季の収入確保を検討する 雪だるま物産館を農のアミューズメント化 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地元食材の活用と販路開拓</div>
機械共同化・スマート農機導入	<ul style="list-style-type: none"> 耕作者が保有している農業機械の状況把握 オペレーターの指定(4人～5人) ドローンの活用。無人草刈り機の使用 農業機械のリース制度の充実。農業機械のリースを農協が行う 	<ul style="list-style-type: none"> 安塚区を全部まとめた法人化 スマート農機のレンタル ドローン資格を取って、農薬散布を行う 担い手に対する機械導入の補助率を上げる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">法人集約とスマート農機の導入</div>
土地利用・農地条件	<ul style="list-style-type: none"> 基盤整備 用水路、暗きょ排水の整備 農地条件の見直し 農地の集約 耕作、農地集積の見直し 冬季の生産活動 	<ul style="list-style-type: none"> 農地の見える化 ほ場整備。耕地整理 農道の作りなおし 畑のレンタル。観光牧場 米粉の転用をもっと多く活用する 雪を利用した野菜作 農地を集積するための組織や指導者がほしい 草刈りをしなくて良いような工夫をする 中山間地域等直接支払の充実 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">農地、農道の整備</div>

各区におけるテーマ別取組数
(区内での関心度)



「担い手・後継者」に関する取組が多く見出され、
次いで、「作物選定・所得確保」に関する取組が多い傾向に

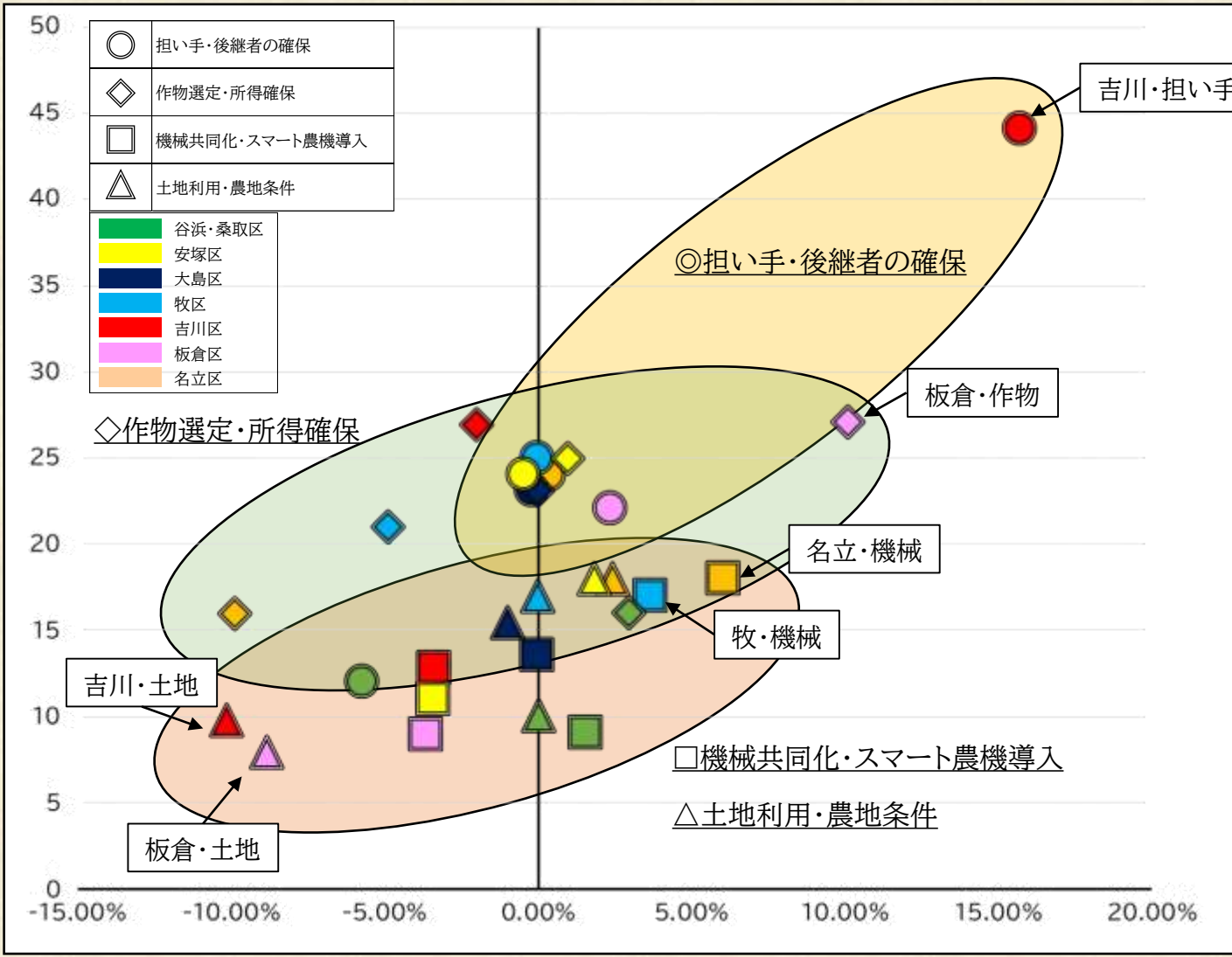
テーマ別取組構成比率の各区と7区全体との差
(市内における関心度の差)



吉川区の「担い手・後継者の確保」と
板倉区の「作物選定・所得確保」が突出して高い比率に

第2回目で見出された取組の数と地区別傾向

見出された取組の数
(区内での関心度)



各区構成比率と7区構成比率との差
(市内における関心度の地域差)

◎担い手・後継者の確保

- ほぼ全ての区で見出された取組数が最も多くなっており、関心が高い取組と考えられる。
- 吉川区で取組数と構成比率差が特に突出している。

◇作物選定・所得確保

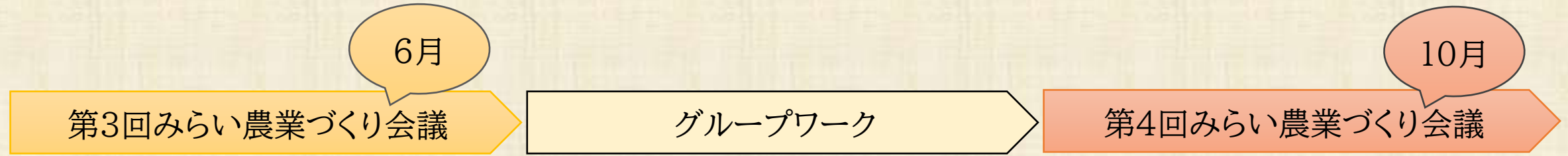
- 「担い手」に次いで取組数が多く見出されているが、各地区で構成比率差が大きい。
- 板倉区で取組数と構成比率差が+で突出している。

□機械共同化・スマート農機導入

- 「担い手」や「作物」に比べると取組数が少ないが、牧区や名立区では構成比率差が+で大きくなっており、関心が高いものと考えられる。

△土地利用・農地条件

- 「機械」と同様に「担い手」や「作物」に比べると取組数が少なく、特に吉川区と板倉区では構成比率差が- (マイナス) で大きくなっている。



第2回目の議論で見出された
テーマ別の「必要な取組」

「今取り組めるもの」
「将来取り組むべきもの」

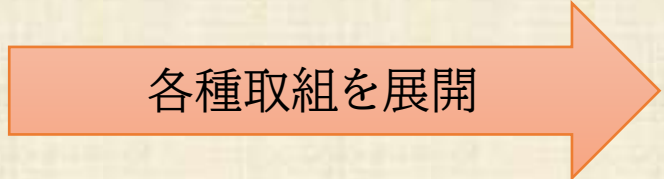
を、グループワークでの
議論材料として整理

- 担い手・後継者の確保
- 作物選定・所得確保
- 機械共同化・スマート農機導入
- 土地利用・農地条件
- 活動のエンジンとなる組織

グループワークでの
議論を集約化し、
地域将来ビジョン

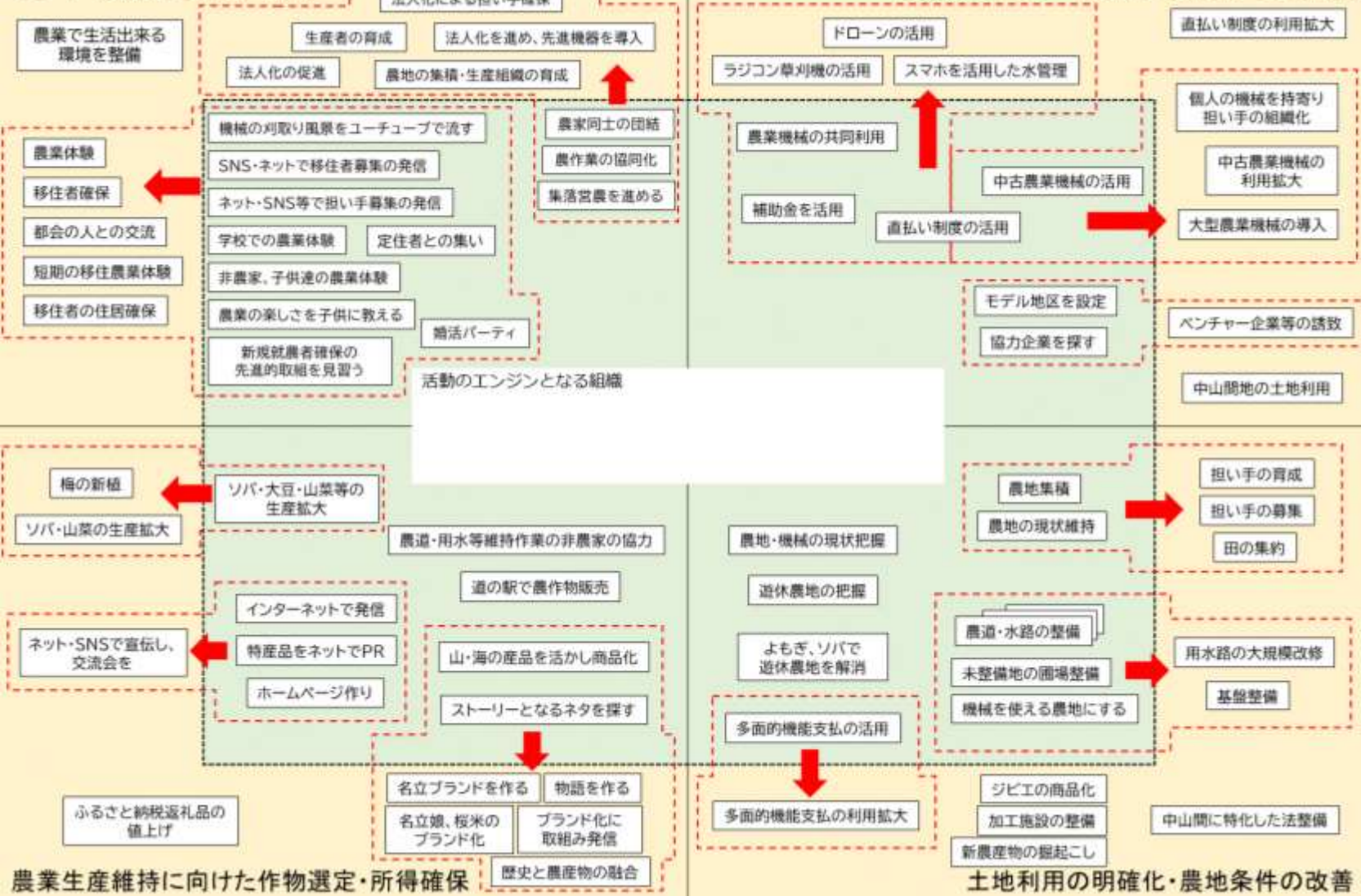
として決定・共有

課題解決のテーマ別に取り組の具体化を議論
(いつ、誰が、どうやって)



担い手・後継者の確保・育成

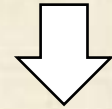
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用



集約化した上で、整理

同じ取組でも、

- ・「今」「将来」の双方にある
- ・複数のテーマにまたがっている

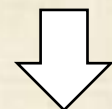


その取組が属するべきと

思われる「テーマ」「時間軸」を
グループごとに話し合って整理

活動のエンジンとなる組織の

イメージを整理



グループワークの材料

県事業等による取組の概要

地域 自治区	取組手法 (実施主体)	会議の名称	取組概要	これまでの取組	今後の予定
浦川原区	フューチャー デザイン・ ワークショップ (明治大学)	浦川原区みらい 農業づくり会議	参加者が「現代世代」と「仮想将来世代」になりきり、地域が抱える課題への対応策検討をそれぞれの視点で議論することにより、長期的な視点に立った対応策を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを2回開催 地域の資源や取り組むべき方策について洗い出すとともに、「未来人」の視点で「残したいもの」「変えてはならないもの」などを議論した。 	令和3年度に議論した内容を、他の地区同様に課題解決に向けた5つのテーマ別に振り分け、必要な取組の設定・共有を行う。
中郷区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	中郷区農業の 未来を考える会	<p>参加者が、人口推計に基づく地域の人口減少危機を具体的に把握した上で、地域の維持に向けた定住目標や活性化の取組を検討し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状分析 人口推計に基づいて予測される将来の人口と農業者の減少を緩和する「人口安定化シナリオ」(定住目標)や、地域の人的資源を洗い出す「地元関係図」を作成 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2・3年度に計9回のワークショップを開催し、「将来プラン」を策定 重点取組項目として、「中郷ブランドづくり」「都市農村交流の促進」「女性の活躍の場創出」「必要な体制づくりや広域連携」を見出した。 	令和3年度に定めた「将来プラン」に基づき、年次計画で各種の取組を実践
清里区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	「きよさと未来予想図」を作る会	<ul style="list-style-type: none"> 将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。 将来プランの実践 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度にワークショップを6回開催 地元関係図の作成過程から、基本的な方針として、地域の維持に必要なサービス(就労場所)を提供する3つの広場(山・農・村)の形成を目指すこととした。 	令和3年度の議論を踏まえ、「将来プラン」への昇華を目指し、参加者による区内踏査(6月)や、モデル事業の実施(10月)を予定

意見交換会に向けた今後のスケジュールについて

当初、6月～7月に意見交換会を実施して8月中に意見交換会のまとめを行う予定であったが、そのとおり進んでいない。遅くてもお盆明けからスタートしないと大幅に遅れてしまうことから下記のスケジュール（案）を作成した。

スケジュール（案1）

会議	協議内容
6/21（火）地域協議会	① アンケート結果の傾向について小委員会でのまとめを報告及び他の傾向について協議 ② 意見交換の日程について協議（お盆明けから9月末までに実施） ③ 意見交換にどの設問を題材として抽出するか協議 ④ 抽出した設問から「何」を相手方に問うか協議
7/26（火）までに小委員会	① 意見交換会の進め方等について
7/26（火）地域協議会	① 意見交換会の進め方等について ② 意見交換を行う区分ごとに日程を協議（意見交換の区分ごとに日程を協議）

↓

8月から意見交換会スタート

スケジュール（案2）

※6/21（火）の地域協議会で協議内容の③～④が協議できなかった場合

会議	協議内容
6/21（火）地域協議会	① アンケート結果の傾向について小委員会でのまとめを報告及び他の傾向について協議 ② 意見交換の日程について協議（お盆明けから9月末までに実施）
7月2週目前後 小委員会	① 意見交換にどの設問を題材として抽出するか協議 ② 抽出した設問から「何」を相手方に問うか協議
7月12日（火）前後 地域協議会	① 意見交換にどの設問を題材として抽出するか協議 ② 抽出した設問から「何」を相手方に問うか協議
7/26（火）までに小委員会	① 意見交換会の進め方等について
7/26（火）地域協議会	① 意見交換会の進め方等について ② 意見交換を行う区分ごとに日程を協議（意見交換の区分ごとに日程を協議）

↓

8月から意見交換会スタート

○意見交換会開催時間

区分1（町内会長、自治会長）⇒ 夜間

区分2（企業等）⇒ 日中

区分3（区内活動団体等）⇒ 夜間

区分4（学校：安塚中学校、高田高等学校安塚分校）⇒ 日中

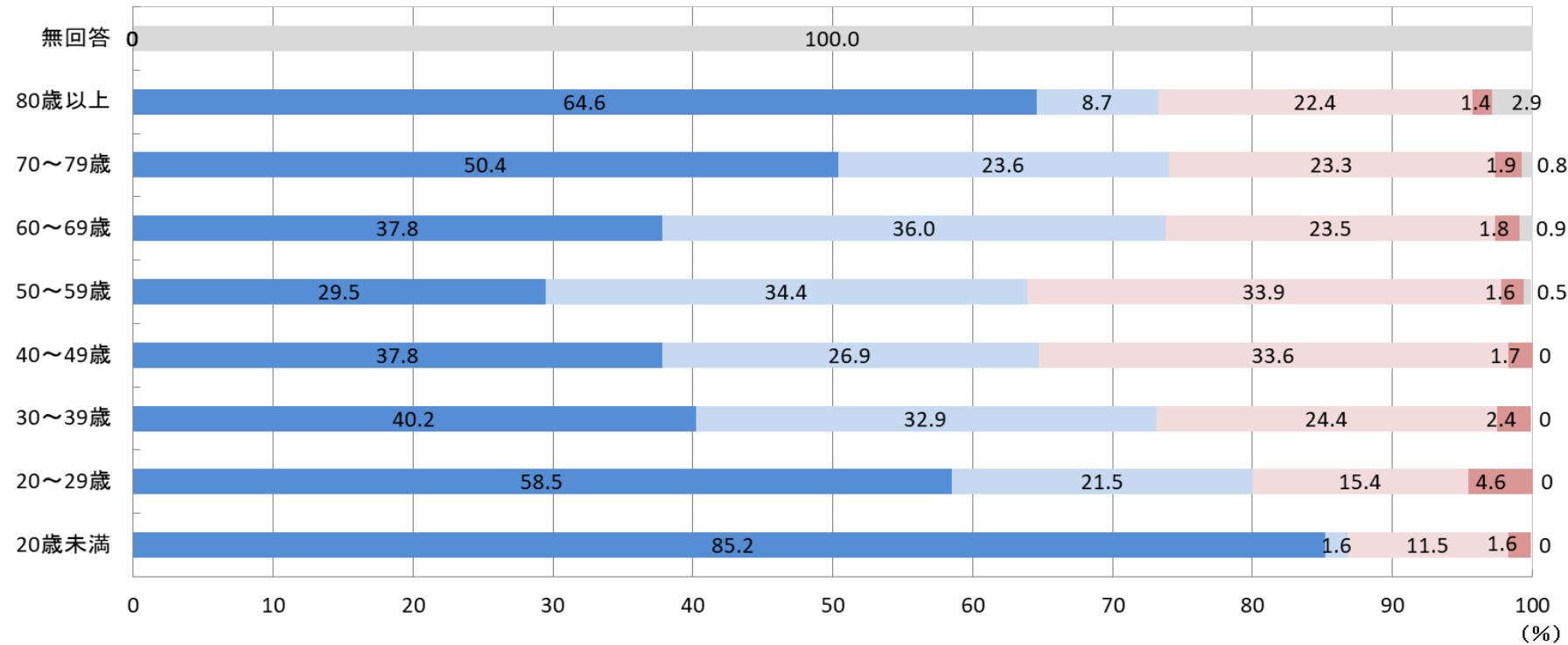
※8月は夏休み期間中のため

9月以降に実施

クロス集計結果(年代別)

問2×問4の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
生まれた時から安塚区に住んでいる	709	47.8%	52	85.2%	38	58.5%	33	40.2%	45	37.8%	54	29.5%	124	37.8%	184	50.4%	179	64.6%	0	0.0%
安塚区で生まれて一時安塚区を離れていたが、その後戻ってきた	365	24.6%	1	1.6%	14	21.5%	27	32.9%	32	26.9%	63	34.4%	118	36.0%	86	23.6%	24	8.7%	0	0.0%
安塚区以外で生まれたが、安塚区へ移ってきた	363	24.5%	7	11.5%	10	15.4%	20	24.4%	40	33.6%	62	33.9%	77	23.5%	85	23.3%	62	22.4%	0	0.0%
その他	28	1.9%	1	1.6%	3	4.6%	2	2.4%	2	1.7%	3	1.6%	6	1.8%	7	1.9%	4	1.4%	0	0.0%
無回答	17	1.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	3	0.9%	3	0.8%	8	2.9%	2	100.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,465		61		65		82		119		182		325		362		269		0	



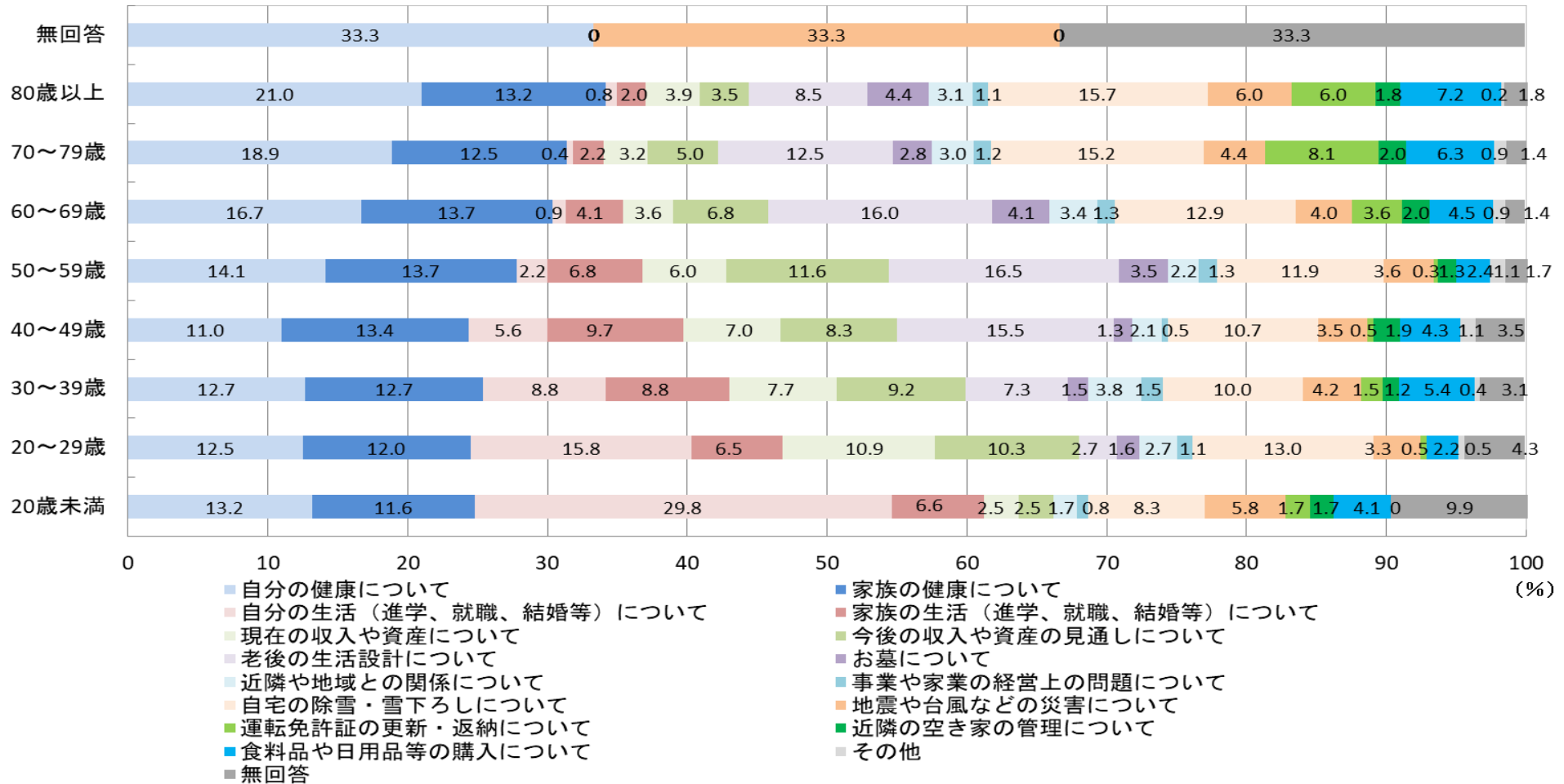
- 生まれた時から安塚区に住んでいる
- 安塚区で生まれて一時安塚区を離れていたが、その後戻ってきた
- 安塚区以外で生まれたが、安塚区へ移ってきた
- その他
- 無回答

クロス集計結果(年代別)

問2×問5の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
自分の健康について	892	17.0%	16	13.2%	23	12.5%	33	12.7%	41	11.0%	90	14.1%	214	16.7%	259	18.9%	215	21.0%	1	33.3%
家族の健康について	688	13.1%	14	11.6%	22	12.0%	33	12.7%	50	13.4%	87	13.7%	175	13.7%	172	12.5%	135	13.2%	0	0.0%
自分の生活(進学、就職、結婚等)	148	2.8%	36	29.8%	29	15.8%	23	8.8%	21	5.6%	14	2.2%	12	0.9%	5	0.4%	8	0.8%	0	0.0%
家族の生活(進学、就職、結婚等)	224	4.3%	8	6.6%	12	6.5%	23	8.8%	36	9.7%	43	6.8%	52	4.1%	30	2.2%	20	2.0%	0	0.0%
現在の収入や資産について	237	4.5%	3	2.5%	20	10.9%	20	7.7%	26	7.0%	38	6.0%	46	3.6%	44	3.2%	40	3.9%	0	0.0%
今後の収入や資産の見通しについて	342	6.5%	3	2.5%	19	10.3%	24	9.2%	31	8.3%	74	11.6%	87	6.8%	68	5.0%	36	3.5%	0	0.0%
老後の生活設計について	650	12.4%	0	0.0%	5	2.7%	19	7.3%	58	15.5%	105	16.5%	204	16.0%	172	12.5%	87	8.5%	0	0.0%
お墓について	170	3.2%	0	0.0%	3	1.6%	4	1.5%	5	1.3%	22	3.5%	53	4.1%	38	2.8%	45	4.4%	0	0.0%
近隣や地域との関係について	155	3.0%	2	1.7%	5	2.7%	10	3.8%	8	2.1%	14	2.2%	43	3.4%	41	3.0%	32	3.1%	0	0.0%
事業や家業の経営上の問題について	61	1.2%	1	0.8%	2	1.1%	4	1.5%	2	0.5%	8	1.3%	17	1.3%	16	1.2%	11	1.1%	0	0.0%
自宅の除雪・雪下ろしについて	711	13.5%	10	8.3%	24	13.0%	26	10.0%	40	10.7%	76	11.9%	165	12.9%	209	15.2%	161	15.7%	0	0.0%
地震や台風などの災害について	234	4.5%	7	5.8%	6	3.3%	11	4.2%	13	3.5%	23	3.6%	51	4.0%	61	4.4%	61	6.0%	1	33.3%
運転免許証の更新・返納について	230	4.4%	2	1.7%	1	0.5%	4	1.5%	2	0.5%	2	0.3%	46	3.6%	111	8.1%	62	6.0%	0	0.0%
近隣の空き家の管理について	91	1.7%	2	1.7%	0	0.0%	3	1.2%	7	1.9%	8	1.3%	25	2.0%	28	2.0%	18	1.8%	0	0.0%
食料品や日用品等の購入について	273	5.2%	5	4.1%	4	2.2%	14	5.4%	16	4.3%	15	2.4%	58	4.5%	87	6.3%	74	7.2%	0	0.0%
その他	39	0.7%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.4%	4	1.1%	7	1.1%	12	0.9%	12	0.9%	2	0.2%	0	0.0%
無回答	108	2.1%	12	9.9%	8	4.3%	8	3.1%	13	3.5%	11	1.7%	18	1.4%	19	1.4%	18	1.8%	1	33.3%
合計	5,253	100.0%	121	100.0%	184	100.0%	260	100.0%	373	100.0%	637	100.0%	1,278	100.0%	1,372	100.0%	1,025	100.0%	3	100.0%
回答者数(合計-無回答)	5,145		109		176		252		360		626		1,260		1,353		1,007		2	

クロス集計結果(年代別)



- ・年齢が上がるにつれて、「自分の健康について」の悩みや不安を感じていると回答した人の割合が高くなる傾向にある。
- ・どの年代においても、「家族の健康について」の悩みや不安を感じていると回答した人が同程度の割合でみられる。
- ・特に40代から60代では、「今後の収入や資産の見通しについて」と「老後の生活設計について」の悩みや不安を感じていると回答した人の割合が高い。
- ・どの年代においても、「自宅の除雪・雪下ろしについて」の悩みや不安は共通のものとなっている。

クロス集計結果(年代別)

問2×問6の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
とてもゆとりがある	190	12.8%	10	16.4%	13	20.0%	15	18.3%	5	4.2%	6	3.3%	29	8.8%	53	14.5%	59	21.3%	0	0.0%
ある程度ゆとりがある	726	49.0%	39	63.9%	36	55.4%	35	42.7%	54	45.4%	93	50.8%	154	47.0%	191	52.3%	124	44.8%	0	0.0%
あまりゆとりがない	309	20.9%	7	11.5%	8	12.3%	17	20.7%	33	27.7%	54	29.5%	94	28.7%	65	17.8%	31	11.2%	0	0.0%
ほとんどゆとりがない	122	8.2%	0	0.0%	1	1.5%	8	9.8%	17	14.3%	23	12.6%	30	9.1%	30	8.2%	12	4.3%	1	50.0%
わからない	67	4.5%	5	8.2%	4	6.2%	4	4.9%	3	2.5%	1	0.5%	9	2.7%	13	3.6%	28	10.1%	0	0.0%
無回答	68	4.6%	0	0.0%	3	4.6%	3	3.7%	7	5.9%	6	3.3%	12	3.7%	13	3.6%	23	8.3%	1	50.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%

回答者数(合計-無回答)

1,414

61

62

79

112

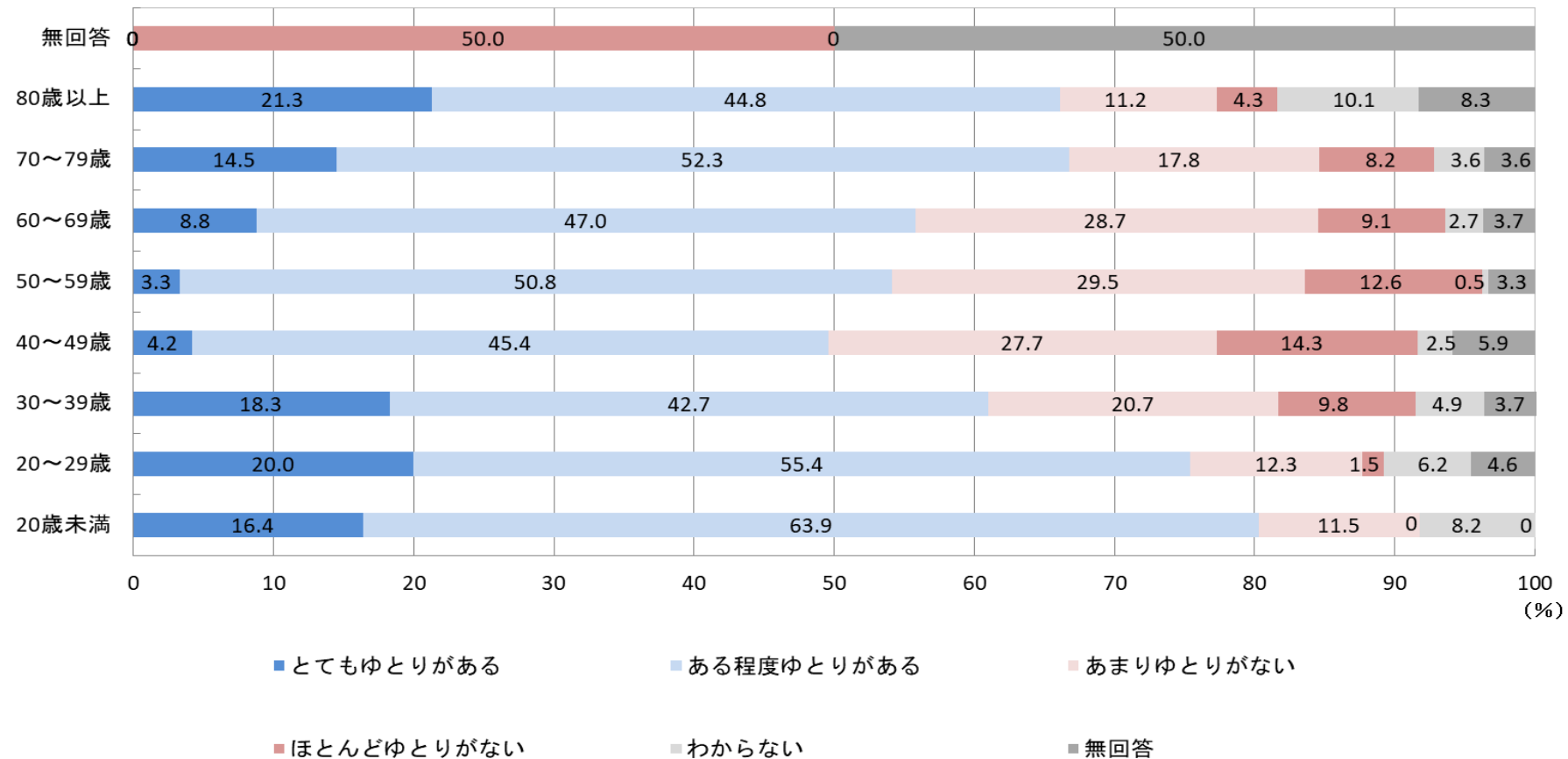
177

316

352

254

1

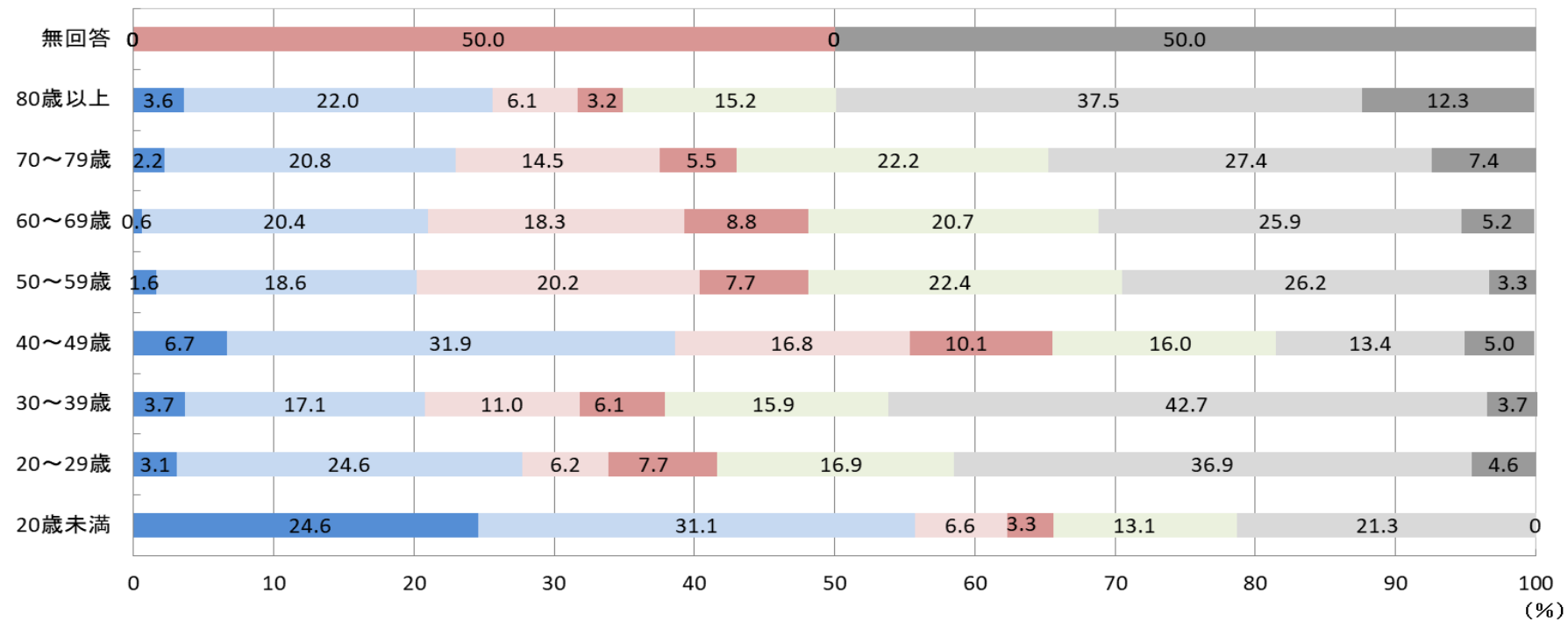


・20代以下では、「とてもゆとりがある」または「ある程度ゆとりがある」と回答した人の割合が非常に高い。
 ・40代から60代では、「あまりゆとりがない」または「ほとんどゆとりがない」と回答した人の割合が高い。

クロス集計結果(年代別)

問2×問7の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
とても満足している	51	3.4%	15	24.6%	2	3.1%	3	3.7%	8	6.7%	3	1.6%	2	0.6%	8	2.2%	10	3.6%	0	0.0%
ある程度満足している	325	21.9%	19	31.1%	16	24.6%	14	17.1%	38	31.9%	34	18.6%	67	20.4%	76	20.8%	61	22.0%	0	0.0%
やや不満だ	204	13.8%	4	6.6%	4	6.2%	9	11.0%	20	16.8%	37	20.2%	60	18.3%	53	14.5%	17	6.1%	0	0.0%
不満だ	97	6.5%	2	3.3%	5	7.7%	5	6.1%	12	10.1%	14	7.7%	29	8.8%	20	5.5%	9	3.2%	1	50.0%
どちらともいえない	283	19.1%	8	13.1%	11	16.9%	13	15.9%	19	16.0%	41	22.4%	68	20.7%	81	22.2%	42	15.2%	0	0.0%
わからない	425	28.7%	13	21.3%	24	36.9%	35	42.7%	16	13.4%	48	26.2%	85	25.9%	100	27.4%	104	37.5%	0	0.0%
無回答	97	6.5%	0	0.0%	3	4.6%	3	3.7%	6	5.0%	6	3.3%	17	5.2%	27	7.4%	34	12.3%	1	50.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,385		61		62		79		113		177		311		338		243		1	



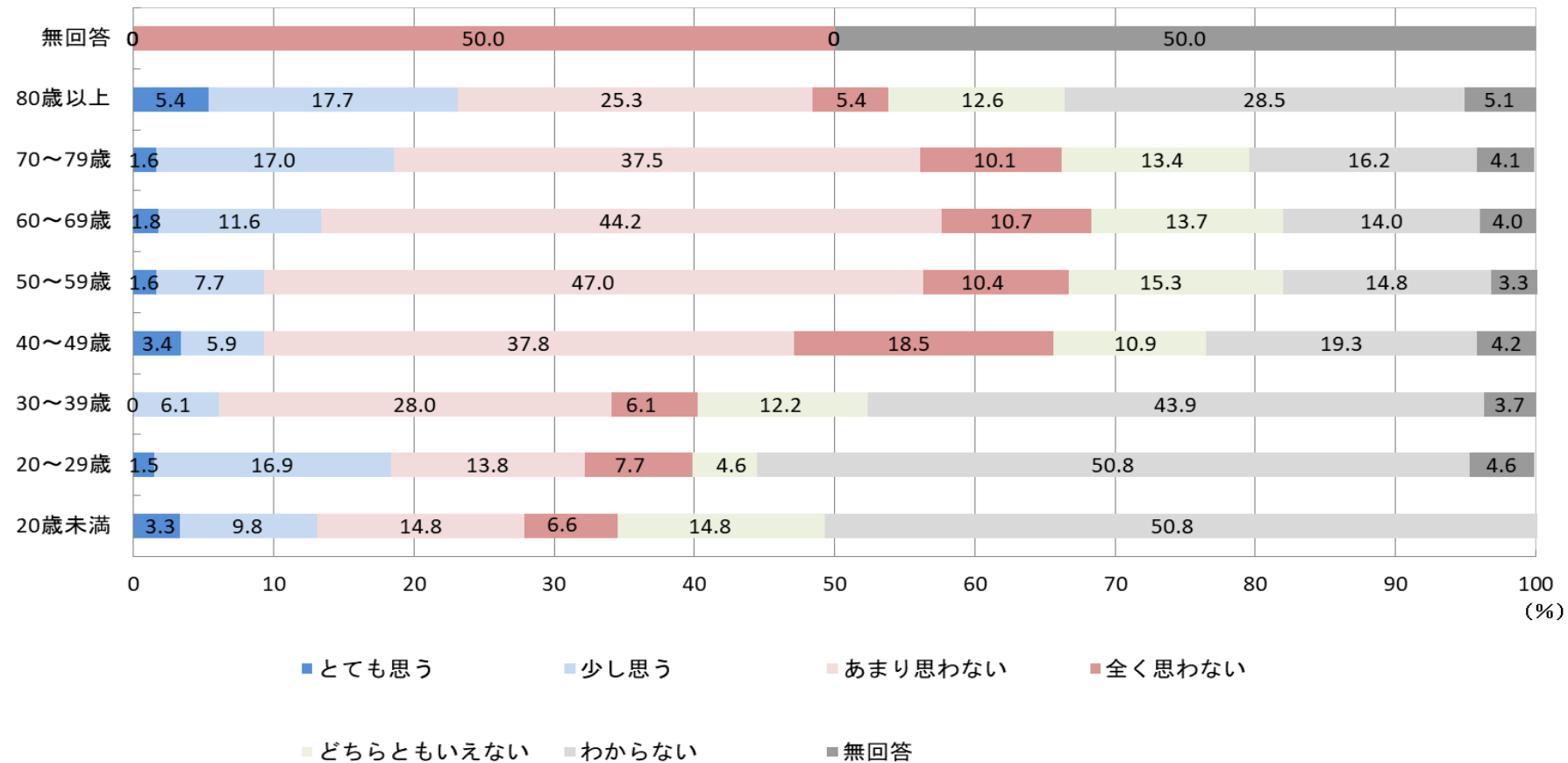
■とても満足している ■ある程度満足している ■やや不満だ ■不満だ ■どちらともいえない ■わからない ■無回答

・特に20歳未満と40代では、「とても満足している」または「ある程度満足している」と回答した人の割合が高い。

クロス集計結果(年代別)

問2×問8の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
とても思う	37	2.5%	2	3.3%	1	1.5%	0	0.0%	4	3.4%	3	1.6%	6	1.8%	6	1.6%	15	5.4%	0	0.0%
少し思う	192	13.0%	6	9.8%	11	16.9%	5	6.1%	7	5.9%	14	7.7%	38	11.6%	62	17.0%	49	17.7%	0	0.0%
あまり思わない	524	35.4%	9	14.8%	9	13.8%	23	28.0%	45	37.8%	86	47.0%	145	44.2%	137	37.5%	70	25.3%	0	0.0%
全く思わない	143	9.6%	4	6.6%	5	7.7%	5	6.1%	22	18.5%	19	10.4%	35	10.7%	37	10.1%	15	5.4%	1	50.0%
どちらともいえない	192	13.0%	9	14.8%	3	4.6%	10	12.2%	13	10.9%	28	15.3%	45	13.7%	49	13.4%	35	12.6%	0	0.0%
わからない	334	22.5%	31	50.8%	33	50.8%	36	43.9%	23	19.3%	27	14.8%	46	14.0%	59	16.2%	79	28.5%	0	0.0%
無回答	60	4.0%	0	0.0%	3	4.6%	3	3.7%	5	4.2%	6	3.3%	13	4.0%	15	4.1%	14	5.1%	1	50.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,422		61		62		79		114		177		315		350		263		1	

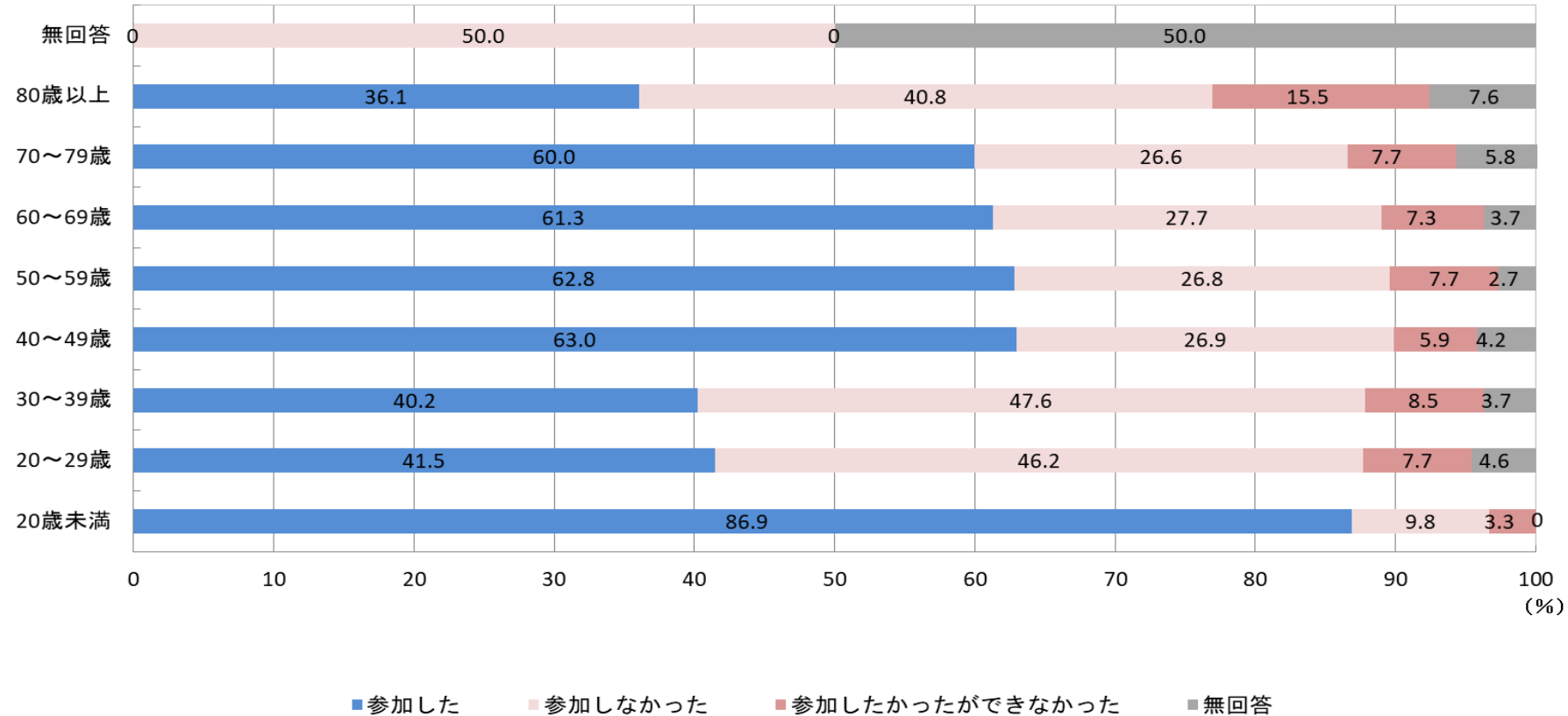


- ・どの年代においても、「あまり思わない」または「全く思わない」と回答した人の割合が高い。
- ・特に20代以下では、「わからない」と回答した人の割合が高い。

クロス集計結果(年代別)

問2×問9の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
参加した	823	55.5%	53	86.9%	27	41.5%	33	40.2%	75	63.0%	115	62.8%	201	61.3%	219	60.0%	100	36.1%	0	0.0%
参加しなかった	458	30.9%	6	9.8%	30	46.2%	39	47.6%	32	26.9%	49	26.8%	91	27.7%	97	26.6%	113	40.8%	1	50.0%
参加したかったができなかった	130	8.8%	2	3.3%	5	7.7%	7	8.5%	7	5.9%	14	7.7%	24	7.3%	28	7.7%	43	15.5%	0	0.0%
無回答	71	4.8%	0	0.0%	3	4.6%	3	3.7%	5	4.2%	5	2.7%	12	3.7%	21	5.8%	21	7.6%	1	50.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,411		61		62		79		114		178		316		344		256		1	

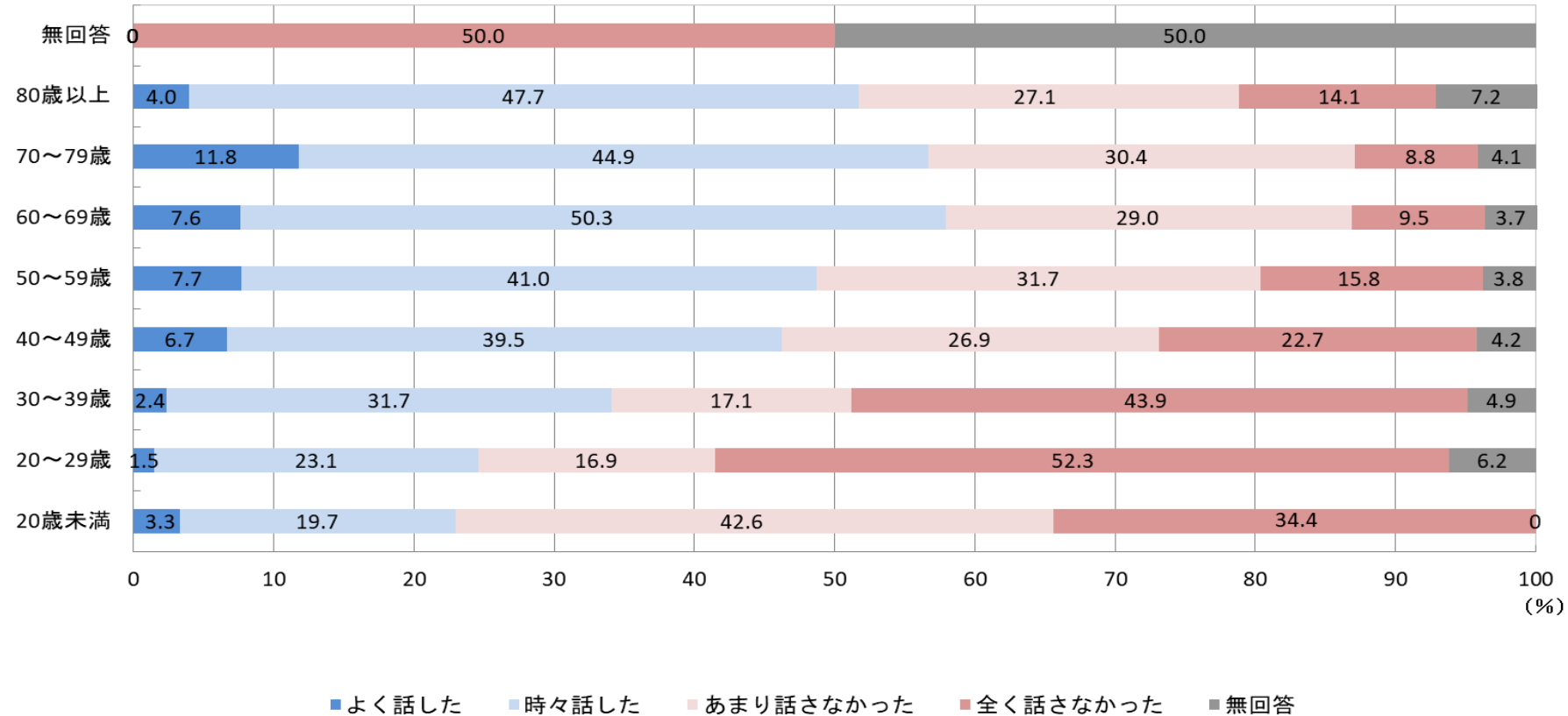


- ・20歳未満では、「参加した」と回答した人の割合が非常に高い。
- ・20代から30代では、「参加しなかった」と回答した人の割合が高く、40代から70代では、「参加した」と回答した人の割合が高い。

クロス集計結果(年代別)

問2×問10の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
よく話した	106	7.2%	2	3.3%	1	1.5%	2	2.4%	8	6.7%	14	7.7%	25	7.6%	43	11.8%	11	4.0%	0	0.0%
時々話した	636	42.9%	12	19.7%	15	23.1%	26	31.7%	47	39.5%	75	41.0%	165	50.3%	164	44.9%	132	47.7%	0	0.0%
あまり話さなかった	422	28.5%	26	42.6%	11	16.9%	14	17.1%	32	26.9%	58	31.7%	95	29.0%	111	30.4%	75	27.1%	0	0.0%
全く話さなかった	250	16.9%	21	34.4%	34	52.3%	36	43.9%	27	22.7%	29	15.8%	31	9.5%	32	8.8%	39	14.1%	1	50.0%
無回答	68	4.6%	0	0.0%	4	6.2%	4	4.9%	5	4.2%	7	3.8%	12	3.7%	15	4.1%	20	7.2%	1	50.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,414		61		61		78		114		176		316		350		257		1	

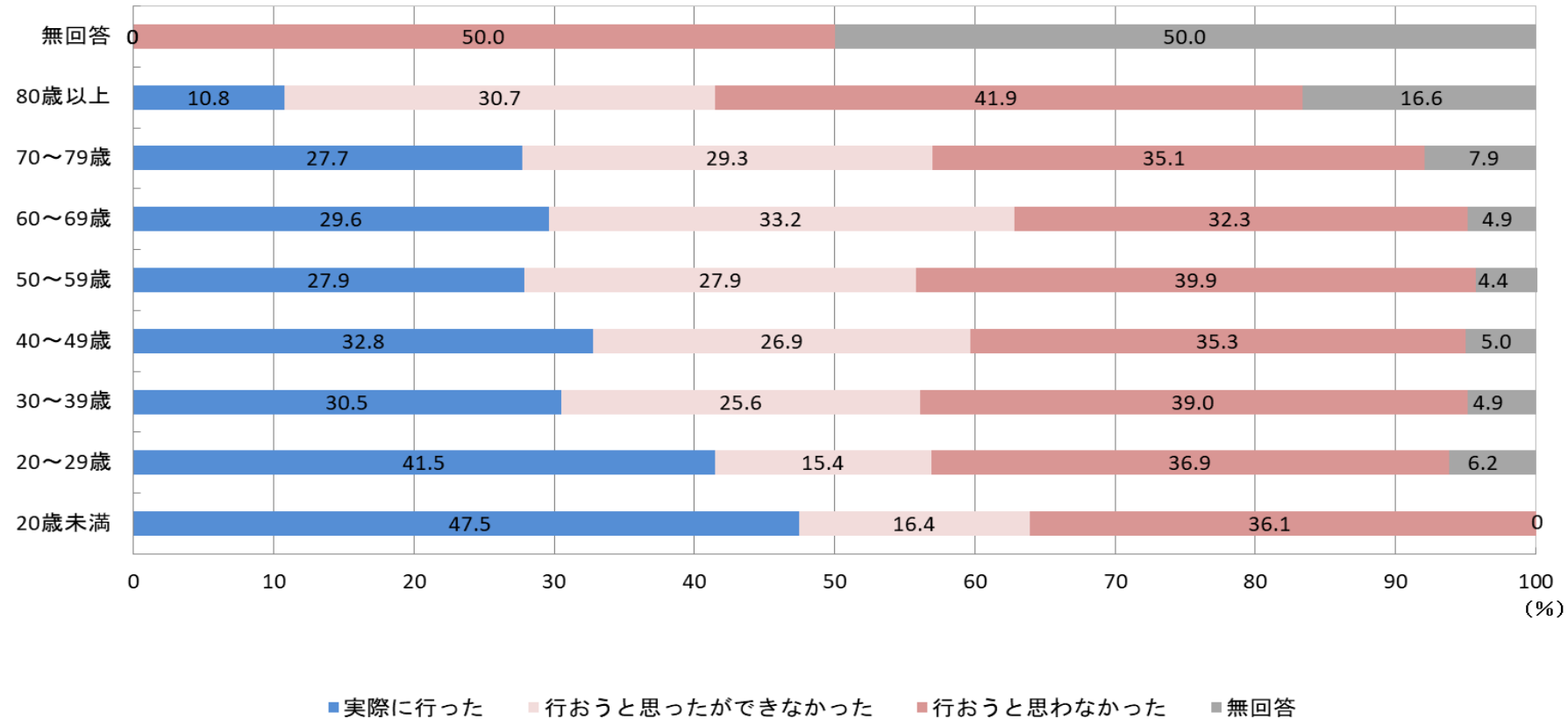


- ・年齢が上がるにつれて、「よく話した」または「時々話した」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。
- ・20代以下では、「あまり話さなかった」または「全く話さなかった」と回答した人の割合が非常に高い。

クロス集計結果(年代別)

問2×問11の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
実際に行った	399	26.9%	29	47.5%	27	41.5%	25	30.5%	39	32.8%	51	27.9%	97	29.6%	101	27.7%	30	10.8%	0	0.0%
行おうと思ったができなかった	425	28.7%	10	16.4%	10	15.4%	21	25.6%	32	26.9%	51	27.9%	109	33.2%	107	29.3%	85	30.7%	0	0.0%
行おうと思わなかった	544	36.7%	22	36.1%	24	36.9%	32	39.0%	42	35.3%	73	39.9%	106	32.3%	128	35.1%	116	41.9%	1	50.0%
無回答	114	7.7%	0	0.0%	4	6.2%	4	4.9%	6	5.0%	8	4.4%	16	4.9%	29	7.9%	46	16.6%	1	50.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,368		61		61		78		113		175		312		336		231		1	

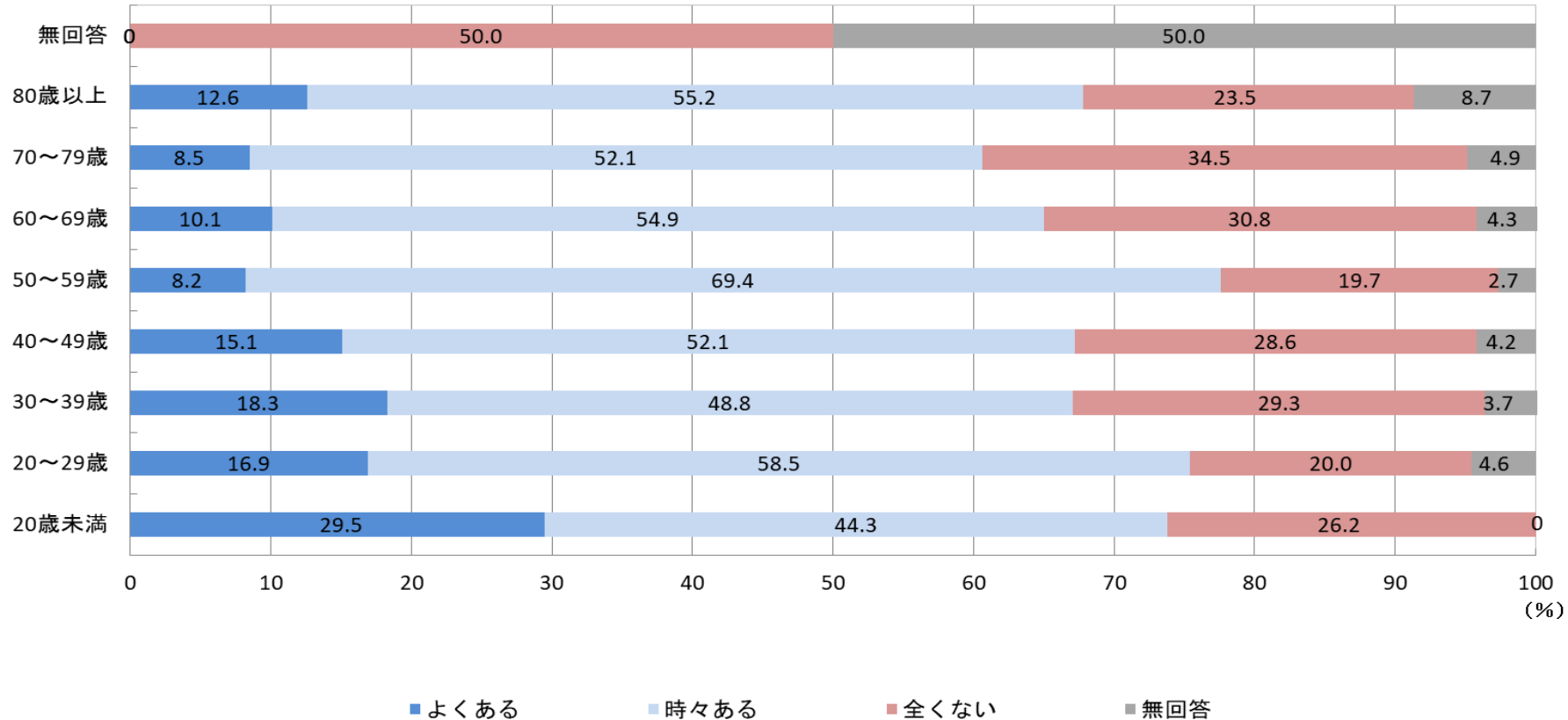


・どの年代においても、「実際に行った」または「行おうと思ったができなかった」と回答した人の割合が高い。

クロス集計結果(年代別)

問2×問12の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
よくある	176	11.9%	18	29.5%	11	16.9%	15	18.3%	18	15.1%	15	8.2%	33	10.1%	31	8.5%	35	12.6%	0	0.0%
時々ある	817	55.1%	27	44.3%	38	58.5%	40	48.8%	62	52.1%	127	69.4%	180	54.9%	190	52.1%	153	55.2%	0	0.0%
全くない	416	28.1%	16	26.2%	13	20.0%	24	29.3%	34	28.6%	36	19.7%	101	30.8%	126	34.5%	65	23.5%	1	50.0%
無回答	73	4.9%	0	0.0%	3	4.6%	3	3.7%	5	4.2%	5	2.7%	14	4.3%	18	4.9%	24	8.7%	1	50.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,409		61		62		79		114		178		314		347		253		1	

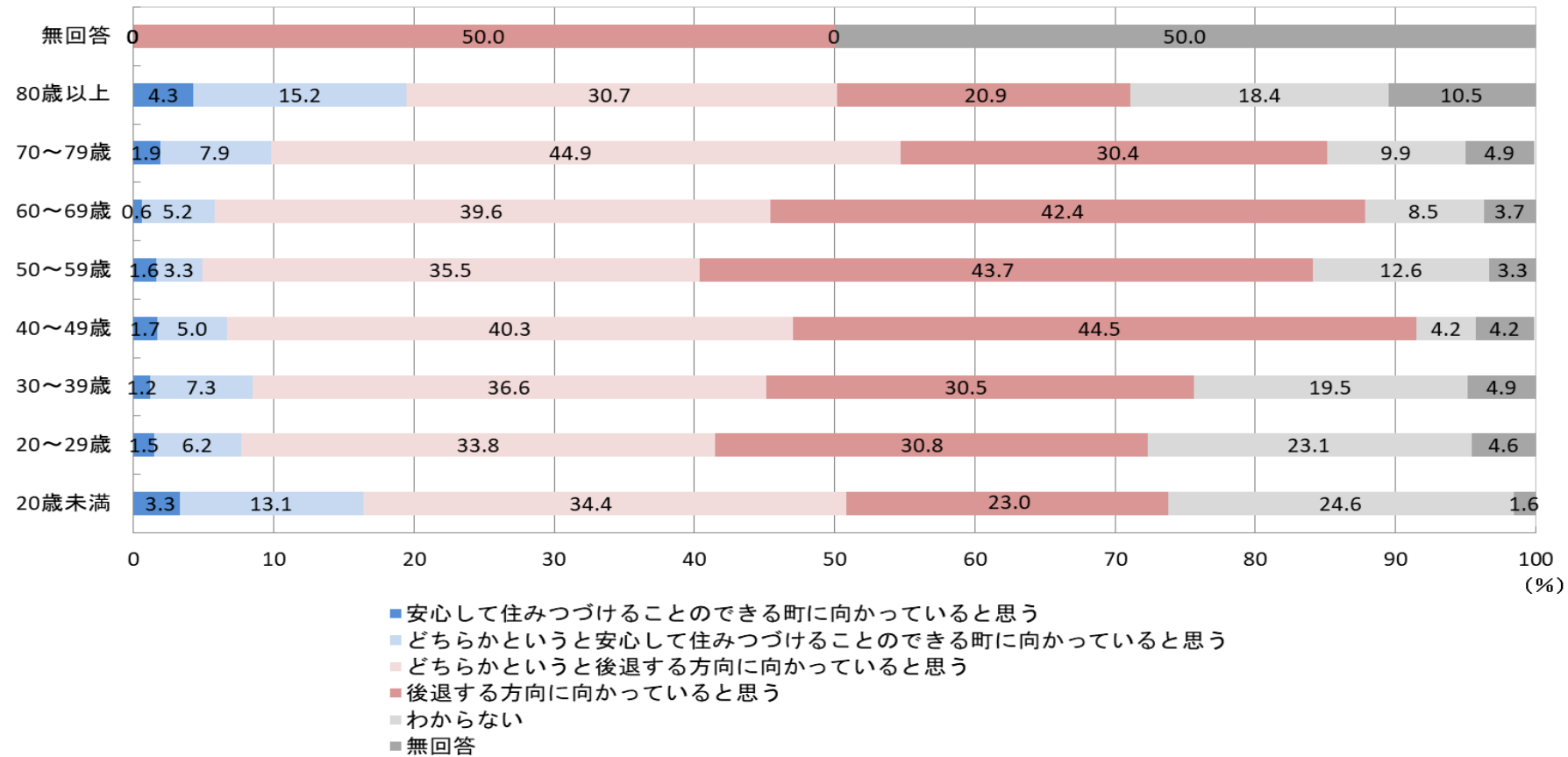


・どの年代においても、「よくある」または「時々ある」と回答した人の割合が70パーセント近くになっている。

クロス集計結果(年代別)

問2×問13の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
安心して住みつづけることのできる町に向かっていると思う	30	2.0%	2	3.3%	1	1.5%	1	1.2%	2	1.7%	3	1.6%	2	0.6%	7	1.9%	12	4.3%	0	0.0%
どちらかという安心して住みつづけることのできる町に向かっていると思う	118	8.0%	8	13.1%	4	6.2%	6	7.3%	6	5.0%	6	3.3%	17	5.2%	29	7.9%	42	15.2%	0	0.0%
どちらかという後退する方向に向かっていると思う	565	38.1%	21	34.4%	22	33.8%	30	36.6%	48	40.3%	65	35.5%	130	39.6%	164	44.9%	85	30.7%	0	0.0%
後退する方向に向かっていると思う	501	33.8%	14	23.0%	20	30.8%	25	30.5%	53	44.5%	80	43.7%	139	42.4%	111	30.4%	58	20.9%	1	50.0%
わからない	189	12.8%	15	24.6%	15	23.1%	16	19.5%	5	4.2%	23	12.6%	28	8.5%	36	9.9%	51	18.4%	0	0.0%
無回答	79	5.3%	1	1.6%	3	4.6%	4	4.9%	5	4.2%	6	3.3%	12	3.7%	18	4.9%	29	10.5%	1	50.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,403		60		62		78		114		177		316		347		248		1	



・どの年代においても、「どちらかという後退する方向に向かっていると思う」または「後退する方向に向かっていると思う」と回答した人の割合が高い。(特に40代から60代で高い)

クロス集計結果(年代別)

問2×問14の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
暮らし続けたい	336	22.7%	7	11.5%	6	9.2%	10	12.2%	26	21.8%	25	13.7%	80	24.4%	93	25.5%	88	31.8%	1	50.0%
できれば暮らし続けたい	505	34.1%	8	13.1%	21	32.3%	29	35.4%	30	25.2%	64	35.0%	113	34.5%	145	39.7%	95	34.3%	0	0.0%
あまり暮らし続けたくない	201	13.6%	14	23.0%	14	21.5%	12	14.6%	21	17.6%	36	19.7%	45	13.7%	39	10.7%	19	6.9%	1	50.0%
暮らし続けたくない	133	9.0%	8	13.1%	8	12.3%	8	9.8%	12	10.1%	19	10.4%	35	10.7%	29	7.9%	14	5.1%	0	0.0%
どちらともいえない	254	17.1%	24	39.3%	16	24.6%	23	28.0%	28	23.5%	39	21.3%	53	16.2%	40	11.0%	31	11.2%	0	0.0%
無回答	53	3.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%	0	0.0%	2	0.6%	19	5.2%	30	10.8%	0	0.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%

回答者数(合計-無回答)

1,429

61

65

82

117

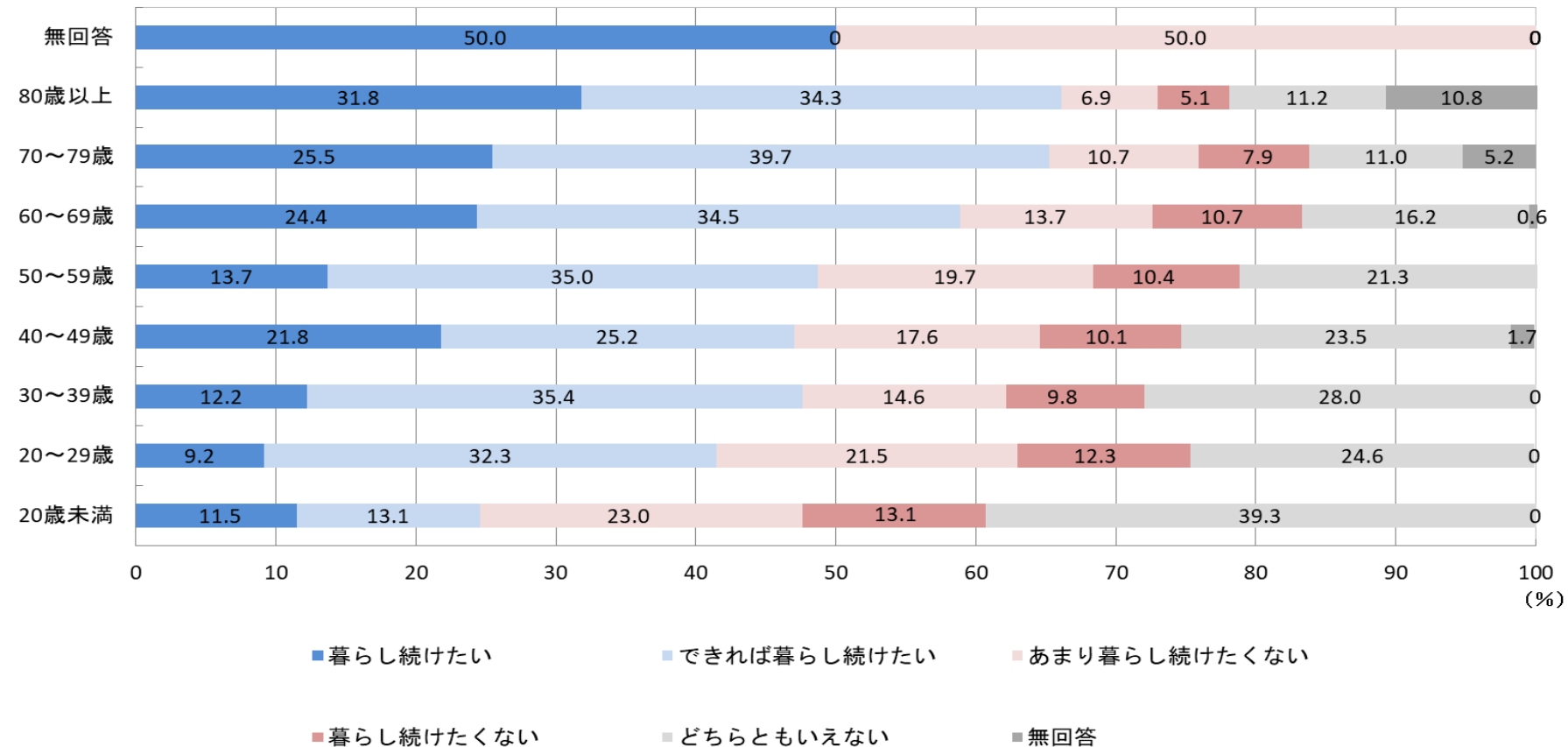
183

326

346

247

2

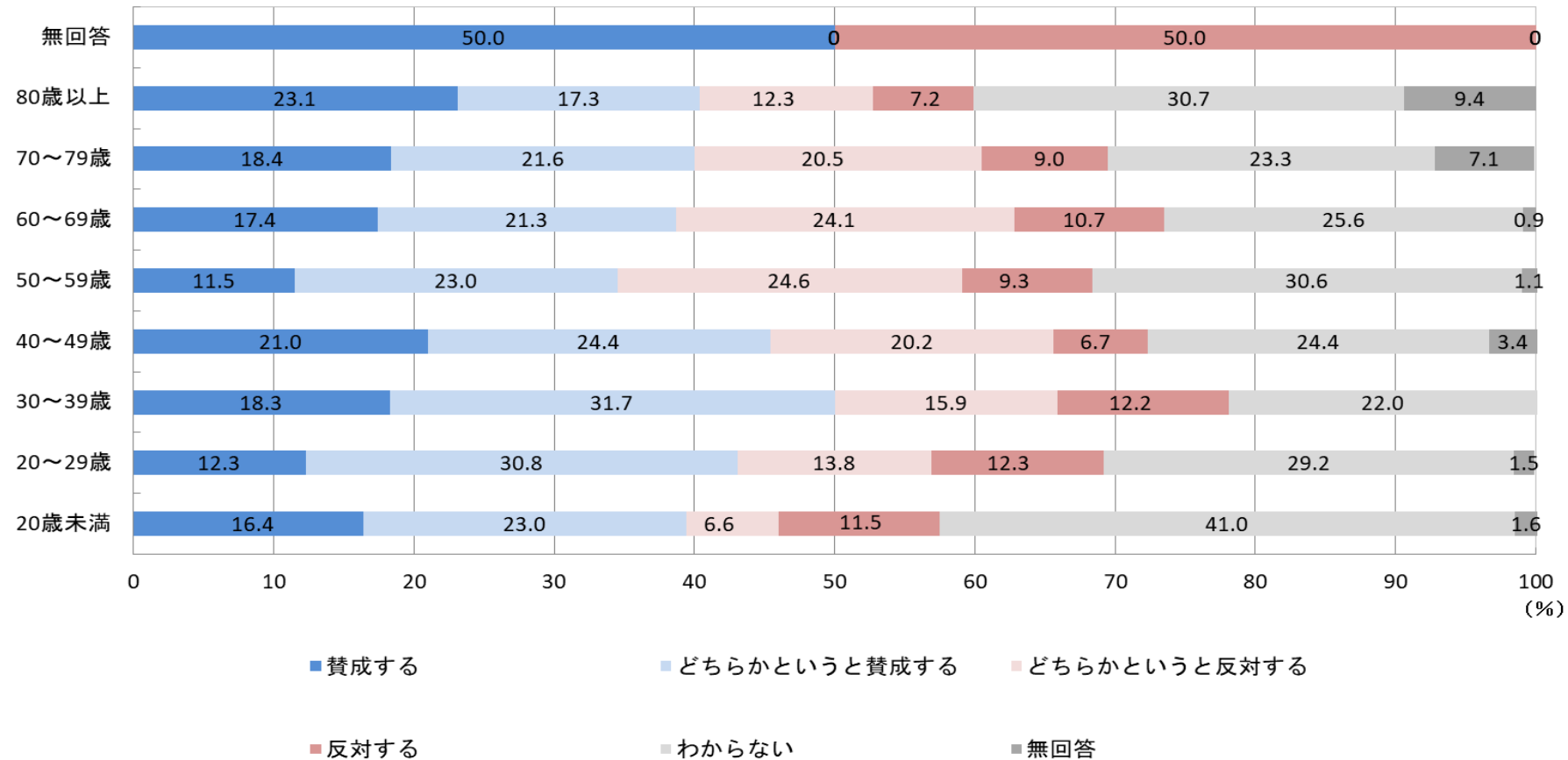


- ・20代以下などの若い世代では、「あまり暮らし続けたくない」または「暮らし続けたくない」と回答した人の割合が高い。
- ・年齢が上がるにつれて、「暮らし続けたい」と回答した人の割合が高くなる傾向にある。
- ・どの年代においても、「できれば暮らし続けたい」と回答した人の割合が高い。

クロス集計結果(年代別)

問2×問15の関係

選択項目	総計		20歳未満		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		80歳以上		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
賛成する	268	18.1%	10	16.4%	8	12.3%	15	18.3%	25	21.0%	21	11.5%	57	17.4%	67	18.4%	64	23.1%	1	50.0%
どちらかという賛成する	328	22.1%	14	23.0%	20	30.8%	26	31.7%	29	24.4%	42	23.0%	70	21.3%	79	21.6%	48	17.3%	0	0.0%
どちらかという反対する	283	19.1%	4	6.6%	9	13.8%	13	15.9%	24	20.2%	45	24.6%	79	24.1%	75	20.5%	34	12.3%	0	0.0%
反対する	139	9.4%	7	11.5%	8	12.3%	10	12.2%	8	6.7%	17	9.3%	35	10.7%	33	9.0%	20	7.2%	1	50.0%
わからない	401	27.1%	25	41.0%	19	29.2%	18	22.0%	29	24.4%	56	30.6%	84	25.6%	85	23.3%	85	30.7%	0	0.0%
無回答	63	4.3%	1	1.6%	1	1.5%	0	0.0%	4	3.4%	2	1.1%	3	0.9%	26	7.1%	26	9.4%	0	0.0%
合計	1,482	100.0%	61	100.0%	65	100.0%	82	100.0%	119	100.0%	183	100.0%	328	100.0%	365	100.0%	277	100.0%	2	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,419		60		64		82		115		181		325		339		251		2	



- ・どの年代においても、「賛成する」または「どちらかという賛成する」と回答した人の割合が40パーセント近くになっている。
- ・どの年代においても、「反対する」と回答した人の割合が10パーセント近くになっている。